The HDDnews

HDD工法委員会

施工実績 590kmに

原田　茂
HARADA　Shigeru
HDD工法委員会

HDD工法委員会では，2004年度のHDD工法による管工事の施工実績をまとめた。

それによると，2003年度のトータル施工実績が37kmあまりであったのに対して，2004年度は55km以上と大幅な増加が見られる。（表1参照）

一見，HDD工法の採用が順調に増加しているようだが，実は2003年までの過去十一年間の実績を見ると，トータルで590kmあまり，即ち平均すると年間60km近くであり，2004年度が大きく伸びたとは言い難い。景気の後退で減少傾向にあったHDD工法の採用が，経済状況の好転とともに，以前の状況に戻りつつあるというのが妥当な認識といえるのではないか。

2003年から2004年にかけての，用途別の増加率を見ると，HDD工法全体の施工延長が約48％増であるのに対して，ガスではほぼこれと同じ49％増にとどまっている一方で，上水，下水はそれぞれ68％増，80％増と全体の増加率を上回る増加を示している。

施工延長全体に占める用途別の割合で見ると，ガスは60％ほどで前年度とほとんど変化がないが，上水，下水ともわずかずつではあるが増加している。電力，通信はいずれも減少傾向である。過去11年間のトータルでは，ガスの割合は70％を超えていることから，ガス以外の分野へのHDD工法の採用が徐々に増加しつつあることを示している。

わが国のHDD工法はガスに始まり，ガス業界の努力によってその実績を伸ばしてきたが，ここにきてようやく他の分野への浸透が効果を表しつつあるということができるであろう。特に上水や下水（真空下水，圧送式下水）などの分野へは着実に広がりつつあるといえるであろう。

また，上水と下水を比べると，過去11年間のトータルでは下水が圧倒的に上水を上回っているにもかかわらず，この2年間では施工延長はほぼ拮抗している。上水が現在では最も伸びの大きい分野であるということができるであろう。

管種別にみると，PE管が95％近くと圧倒的に多い。ガス以外の用途ではなかなか採用に至らないといわれるPE管であるが，少しずつではあるが認知されつつあるようで，上水の分野での伸びはPE管の認知度が高まったことの影響が大きい。

PE管がHDD工法にもっとも適した管種であることから当然の結果であるが，逆にPE管の採用がHDD工法の普及拡大のキーであるということができる。PE管の採用とHDD工法の採用は表裏一体の関係にあるといっても過言ではない。

2005年度の施工実績については現在取りまとめ中であるが，今後も上記のような傾向は続いていくと思われる。当委員会では引き続き施工実績の推移を注目しつつ，HDD工法の普及拡大への戦略を検討していくつもりである。

表－2　トータル施工延長（1994～2004年度：11年間）

用途	施工延長（m）	用途別割合（％）
ガス	418,479	70.7
上水	40,012	6.7
下水	113,798	19.0
電力	3,083	0.5
通信	22,544	3.8
計	597,920	

表－1　HDD工法による施工延長（m）（2003、2004年度）

用途	2003年度	用途別割合（％）	2004年度	用途別割合（％）	増加率（％） （2004年度分－2003年度分）/2003年度分
ガス	23,450	62.3	35,023	62.8	49.4
上水	5,338	14.2	8,986	16.1	68.3
下水	5,837	15.5	10,510	18.9	80.1
電力	218	0.6	154	0.3	△29.4
通信	2,802	7.4	1,073	1.9	△61.7
計	37,645		55,746		48.1